

【巻頭言】

「コロナ禍の中で」

東北文化学園大学 医療福祉学部 リハビリテーション学科 視覚機能学専攻
専攻長 門屋 講司

2020年度は新型コロナウイルスによる感染症の年になってしまいました。

コロナウイルスはエンベロープ（脂質二重膜）を持つRNAウイルスです。従来感冒を含む急性気道感染症の原因ウイルスとして4種類のコロナウイルスが報告されていました。これに加えてSARSコロナウイルス（SARS-CoV）とMARSコロナウイルス（MARS-CoV）が存在します。新型ウイルス感染症は2019年12月に中国の武漢市で初めて患者が報告され、その後新型のコロナウイルスが病原体であることが確認されSARS-CoVとウイルス学的に類似していたため、SARS-CoV-2と命名されました。日本では2020年1月15日～1月31日の間にSARS CoV-2が検出された確定例は12例でした。新型コロナウイルスについては世界的に多くの研究が行われ、疫学、臨床的特徴、予後、治療法等少しずつ解明されてきているようですが、これからさらに研究、解明が進むことと思われま

す。全国的にコロナ禍の改善がみられず都市部を中心に11都府県に非常事態宣言が発出されている昨今ですが、2021年2月1日現在、全国の感染者数は391,844人、死者5,832人、宮城県では感染者3369人、死者22人となっています。

幸いにも現在のところ本学にはコロナ陽性者はいないようです。本学の学生は感染症に対する意識が高いのかもしれませんが。視覚機能学専攻においては、2020年7月から約1か月に短縮し、前期の臨地実習を行うことができました。

2021年1月になり日本眼科学会雑誌の最新号に目を通していたところ、ある論文の共著者の中に卒業生の名前を見つけました。コロナ禍のなかでの嬉しい発見でした。眼科の一流の雑誌に名前が載ることは勤務先での仕事や人柄が信頼されている証と思われました。

世界あるいは国内においても雑誌にはそれぞれ特徴がありインパクトファクターも様々であり、A誌は基礎研究が主体、B誌は臨床研究が主体等、特徴があり、投稿する側も選択して投稿しているようです。リハビリテーション学科紀要が目指すべきものは何か考えなければならぬと思います。各専攻における研究会の印象記や症例報告会等の内容の紹介等を、一般論文に加えれば紀要もさらに身近な存在になるように思われます。

最後にコロナ禍の忙しい中、紀要に投稿された先生方に敬意を表します。

令和3年2月